

広報



2010  
(平成22年)

# まつざき

12  
No. 559



## 収穫を祝いお餅つき(11/12)

松崎幼稚園では、園児たちが稲作体験で収穫したもち米を使って餅つきを行いました。

園児たちは元気の良い掛け声に合わせて威勢よく交代で重いきねを振りました。



## 「第16回 全国棚田(千枚田)サミット」を振り返って

# 第16回 全国棚田(千枚田)サミットを振り返って

石部の棚田はかつて18畝を有していましたが、産業構造の変化、過疎・高齢化によりほとんどが放棄され原野化していました。

こうしたなか、平成12年地域住民が棚田を「地域の宝」として復田作業を始め、平成14年度からは棚田オーナー制度を導入し、農作業を通じて都市住民との交流、大学や企業等との協働による保全活動をしています。

しかしながら、復田から10年が経過した今日、棚田を担う棚田保全推進委員会のメンバーの高齢化や地区の準限界集落化により、地域だけでは棚田保全にかかわる人材の確保が困難な状態になっており、地域の棚田保全の認識の共有や持続可能な仕組みづくりが喫緊の課題となっています。

こうした状況を背景に、棚田を復田し、地域活性化を進めたこれまでの取り組みを検証するとともに、棚田を有する各地域が抱える課題解決に

向けた方策を全国各地の事例や意見交換を通して考えていくと、第16回全国棚田(千枚田)サミットが10月22日・23日に開催されました。

サミットには、全国35都道府県より、1,000人余りの棚田関係者が参加し、基調講演や分科会、交流会を通じて棚田のおかれた現状や棚田保全、活用策について議論を交わしました。



### 開会式

開会式にご来賓として出席していただいた篠原孝農林水産副大臣は、祝辞のなかで、江戸から明治にかけて開国を求めて日本にきた外国人は、棚田の重要性、素晴らしさに気づいており、開国を迫った結果、美しい理想郷が壊れ、人情味豊かな国民性が失われることを心配した事例を紹介し、私たちがしなければならぬことは、こうした美しい光景、棚田を守っていくことであると述べられました。



### 基調講演

開会式終了後、川勝平太静岡県知事による「農の理想郷づくり〜棚田を活かす〜」と題した基調講演が行われました。講演のなかで知事は、「日本一高い富士山と日本一深い海である駿河湾を眼下に臨む石部の棚田は、富士の国の最も美しい村であると信じている。」

「石部の棚田は、単に景観が美しいだけでなく、地域の人たちの心と手が加わり、歴史をしつかり刻んでいて、そし



棚田の石部を臨む富士山を眼下に駿河湾を臨む

て未来志向があるから美しい。」

「美しい村の共通性は里山。人間が帰るべきふる里(理想郷)がここにある。里山の最も美しい所を自分たちが持っていると考えれば、世界に堂々と胸を張って見せられる。」と述べられ、石部の棚田を絶賛し、官民、地域一体となって日本の美しい村づくりを進めていきたいと講演しました。



### 事例発表

石部地区棚田保全推進委員会の高橋周蔵会長は、「よみがえれ!『食のふるさと 棚田』〜潤える地域づくりを目指して〜」と題した発表のなかで、平成12年から取り組んできた棚田を核とした地域づくりや活性化策への期待を説明するとともに、高齢化により、人材の確保ができず、地域だけでは棚田を守っていくことが困難になっている危機的な状況を報告しました。

先人が孫子のことを考え築いた地域の宝、貴重な文化遺産である棚田を後世に伝えていくため棚田保全に対する認識の共有と持続可能な保全体制づくりを強く訴えました。



### 分科会・首長会議

サミットでは、棚田保全・協働、多面的機能・生態系保全、教育連携などをテーマに4つの分科会と首長会議が開催され、各分科会では、各地域で活躍する話題提供者が、取組事例を紹介しました。

第1分科会(棚田保全・協働)では、小・中学校・高校・大学との連携や組織化、棚田に若い力の導入などが報告され、田舎の農作業に興味を持つ若者への経済的な支援や全国の棚田のネットワーク化が提案されました。

第2分科会(多面的機能・生態系保全)では、ホタルやトンボの保護活動などが報告され、棚田を守ることが豊かな自然を守ることだということを、繰り返し発信していくことが必要であると提案されました。

第3分科会(教育連携・体験学習)では、高校や大学での取り組み、自然体験学習などが報告され、棚田は命のつながりを実感できる、豊かな感性を育むことができる学びの場であるということが提案

されました。

#### 第4分科会（農商工連携・

観光連携）では、特産品の開発、都市と農村の交流支援、地域資源の活用事例が報告され、棚田を支える取り組みが地域、団体でも出てきていると述べられました。

首長会議では、戸別所得補償制度と第三期中山間地域等直接支払制度をテーマに議論がなされ、国への積極的な働きかけの必要性や、担い手の対応について、地区だけの対応でなく、町全体で組織を作り、それをNPO法人化し、対応していくことが一つの方策であると提案されました。



### 共同宣言



### 共同宣言

閉会式では、分科会を踏まえた共同宣言が行われ、「棚田は地域の歴史が刻まれたかけがえない日本の財産であり、それを後世へ引き継いでいくことは、今を生きる私たちの使命。石部の棚田（赤根田村・百笑の里）に込められた、棚田に携わるすべての人の笑顔あふれる地域が、全国各地で創りだされることを願う」として、

- 一、新しい時代の結いを築き、新たな担い手の育成と持続的な体制を創造する。
  - 一、棚田の生態系や多面的機能を認識し永続的に保持する。
  - 一、棚田が米の生産のみならず、生きものを育む命の源であることを再認識し、棚田での学習機会を通じて「生きる力」を養う。
  - 一、異業種が相互に連携し、地域活性化を図る。
- 一、国の制度を有効活用しながら地域活動に取り組む。
- 以上のことが棚田保全推進委員会副会長高橋靖さんと芝村知子さんにより力強く宣言されました。



### 結いの心を今後に

「棚田が結ぶ、ふるさとの絆くみんで創ろう！百笑の里」をメインテーマに掲げ、棚田を守り育てていく意義を多くの関係者が認識し、新たな結いやその心・絆を高めて皆で取り組んでいくことを趣旨として今回のサミットは開催されました。

人口約8,000人の静岡県県で一番小さな町での開催で、全国各地の皆様にご満足いただけるか不安な点もありましたが、小・中学生、石部女性会OBなどの皆様の手作りの記念品をはじめ聖和保育園リード鼓隊の演奏、松崎小学校2年生の「棚田へ行こう！」の斉唱、女性会の皆様の郷土料理のおもてなし、高校生・ボランティアによる受付・案内・誘導・ガイドなど町内外の個人、企業、各種団体が一致団結して全国各地の皆様を暖かくお迎えいただきました。

棚田見学会では、天候にも恵まれ、駿河湾を眼下に雄大な富士山を望む棚田をご覧いただくことができました。また、沿道では地域の皆様が旗

や手を振ってお迎えいただくなど、2日間にわたるサミットは滞りなく終了することができました。

今回のサミットは、お互いに助け合い成し遂げることができた、まさに結いの精神が結集した、テーマに沿った大会になり、ご支援、ご協力いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。

今後は、今回のサミットを一過性のイベントにすることなく、石部の棚田の新たなスタートとするため、提言・提案された意見を活かすとともに、サミット開催で芽生えた協働体制により棚田を「郷土の宝」「日本の宝」として持続的な保全や地域活性化を推進してまいりますので、皆様により一層のご支援、ご協力をお願いいたします。



### サミットを終えて



高橋周蔵会長

2日間にわたる全国棚田(千枚田)サミットは全国各地から多くの皆様のご参加をいただき盛会の内に終了しました。サミットを通して、全国各地の皆様と交流を深め、情報交換ができたことは棚田を保全する者にとって大きな支えとなりました。

棚田の果たす役割は大きく、棚田を持続的に守り育て、将来の世代へ引き継いでいくことは、私たちの責務であるとの思いは、参加者の心に、より一層強く刻み込まれたものと確信しています。

また、子どもから大人まで幅広い年代の人が関わり協力して盛り上げていった今回のサミットは、結いの行動であったと思います。

今後も開催テーマである「棚田が結ぶ、ふるさとの絆」の気持ちをお忘れず、地域の絆を強め、力を合わせて保全活動が進められるよう、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、開催に当たりご尽力いただいた皆様へ厚く御礼申し上げます。

### 【問合せ】

企画観光課（42） 3964

# 栄えある叙勲

平成22年秋の叙勲受章者が11月3日に発表されました。松崎町からは、次の方たちが受章しました。受章者の皆様、おめでとうございます。

## 旭日双光章（地方自治功労）

ふかさわ すすむ  
深澤 進さん（松崎）

元松崎町長の深澤進さん（78歳）が、旭日双光章（地方自治功労）を受章し、11月4日に静岡県庁にて伝達を受けました。深澤さんは、平成3年から平成13年まで町議会議員として活躍された後、松崎町長として地方自治の発展に貢献されました。

## 瑞宝単光章（消防功労）

うちだ もとのぶ  
内田 址延さん（松崎）

元松崎町消防団長の内田址延さん（77歳）が、瑞宝単光章（消防功労）を受章し、11月4日に静岡県庁にて伝達を受けました。内田さんは、昭和26年に消防団へ入団し、通算消防団員歴38年の長きにわたり、地域防災に尽力されました。



## 松崎町

### 功労者表彰

11月26日（金）、松崎町功労者表彰が、生涯学習センターふれあいホールで行われました。この表彰は、松崎町表彰条例に基づき、町の自治、福祉など各般にわたって、町の発展に寄与された方の功績をたたえ、毎年11月に実施しています。

### 功労表彰

ふかさわ すすむ  
東区 深澤 進さん  
（元松崎町長）

多年にわたり、町長として町政の発展に尽力し、地方自治の振興に貢献されました。



## 平成22年度 上半期 施設利用状況

施設名		本年度(人)	前年度(人)	比較(人)	割合(%)
伊豆まつぎき荘	宿泊	11,503	13,216	△1,713	87.0%
	入浴	649	853	△204	76.1%
	休憩	2,863	2,511	352	114.0%
	小計	15,015	16,580	△1,565	90.6%
伊豆の長八美術館	入館	19,641	24,052	△4,411	81.7%
重文岩科学学校	入館	13,240	14,463	△1,223	91.5%
明治商家 中瀬邸	入館	9,897	10,294	△397	96.1%
民芸館	入館	1,386	1,699	△313	81.6%
道の駅花の三聖苑	入館	15,729	16,353	△624	96.2%
	入浴	16,615	18,177	△1,562	91.4%

## 振興公社管理施設上半期実績

長引く景気低迷の影響から、平成22年度上半期、振興公社の管理施設も大変苦しい経営状況となりました。

昨年度の上半期は、観光協会が実施したオンラインワンフ

エスタの影響で好調だった入館施設ですが、今年度前半は苦戦を強いられました。

しかしながら、秋の観光シーズンを迎え、団体客が好調となりました。

伊豆まつぎき荘も、ほとん

都圏からの送客の増加が見込め、下半期での追い込みが期待されています。

今後とも円高による景気の悪化が懸念されますが、職員一丸となって経営状況の改善に取り組んでまいります。

### 【問合せ】

企画観光課（42） 3964

## 町の財政状況

# 平成22年度 一般会計 上期執行状況

平成22年4月1日から9月30日までの一般会計の執行状況をお知らせします。

### 歳入

予算額 38億8,968万6千円  
収入済額 20億2,809万4千円 収入率(52.1%)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	収入率
地方交付税	13億 227万8千円	10億1,964万4千円	78.3%
町 税	7億3,630万4千円	4億5,858万2千円	62.3%
国庫支出金	2億 8,991万円	9,363万4千円	32.3%
町 債	3億 89万1千円	0円	0.0%
繰越金	1億円	1億9,810万3千円	198.1%
県支出金	1億9,804万4千円	2,028万5千円	10.2%
諸 収入	1億 3,664万円	3,948万円	28.9%
使用料及び手数料	9,399万5千円	3,022万5千円	32.2%
そ の 他	3億1,852万1千円	8,223万2千円	25.8%
繰越明許費	4億1,310万3千円	8,590万9千円	20.8%

### 歳出

予算額 38億8,968万6千円  
支出済額 15億6,240万8千円 支出率(40.2%)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	支出率
民 生 費	7億 3,816万円	3億4,209万7千円	46.3%
総 務 費	4億7,467万1千円	2億 959万6千円	44.2%
衛 生 費	4億5,084万2千円	1億5,461万1千円	34.3%
公 債 費	3億9,662万9千円	1億8,766万9千円	47.3%
教 育 費	4億 1,072万円	1億6,265万3千円	39.6%
農 林 水 産 業 費	2億3,814万1千円	6,838万円	28.7%
商 工 費	2億6,617万5千円	1億 56万円	37.8%
土 木 費	1億3,196万6千円	2,939万5千円	22.3%
そ の 他	3億6,927万9千円	1億3,809万8千円	37.4%
繰越明許費	4億1,310万3千円	1億6,934万9千円	41.0%

### 用語の説明

#### 地方交付税

地方公共団体間の財政不均衡を是正し、必要な財源を保障するため、国から地方公共団体に対して交付される資金

#### 国庫支出金

国が用途を特定して地方公共団体に交付する資金の総称

#### 繰越明許費

町の歳出予算の経費のうち、その性質上または予算成立後の事由によって、年度内に支出を終わらせることができない支出について、あらかじめ議会の議決を経ておけば翌年に繰り越して使用することができる経費

#### 民生費

高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉などに支出される経費

#### 総務費

人事、企画、財政、交通安全など他部門に分類されない事業に要する経費

#### 公債費

地方債を償還するための経費

## 9月30日現在の基金（町の貯金）と地方債（町の借金）の状況

#### ●町の貯金（財政調整基金など12基金）

16億8,176万7千円  
町民1人当たり約20万9千円

#### ●町の借金

32億6,811万9千円  
町民1人当たり約40万7千円

※1人当たりの値は、9月30日現在の人口 8,023人で計算しています。

【問合せ】

総務課（42）3963

# 税の作品審査結果について

伊豆下田納税貯蓄組合連合会では、今年も小学生・中学生を対象に「税に関する作品（ポスター、習字、作文）」を募集しました。

この事業は、次の世代を担う少年・少女に作品の応募を機会に、私たちの生活に欠かすことのできない税について、その仕組みや目的を知り、税に対する理解を深めていただくことを目的に開催しています。

## 入賞作品

○ポスター



静岡県納税貯蓄組合連合会

銅賞

鈴木拓海さん（松小6年）

○習字

静岡県納税貯蓄組合連合会

佳作

大場康平さん（松小6年）

伊豆下田納税貯蓄組合

連合会長賞

田村 歩さん（松小6年）

松崎町長賞

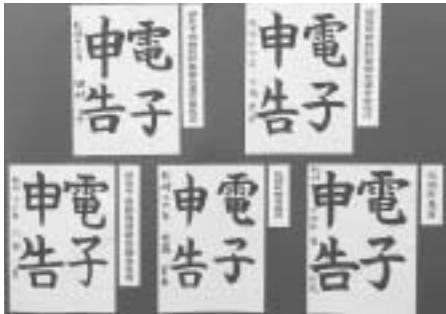
森 彩花さん（松小6年）

松崎町教育長賞

佐藤星来さん（松小6年）

伊豆下田納税貯蓄組合協議会長賞

川田 昇さん（松小6年）



【問合せ】

窓口税務課（42）3968

## 宝くじ普及広報事業 コミュニティ助成事業

松崎町青少年健全育成公演会  
人形劇「大どろぼうホッツェ  
ンプロッツ」を上演

宝くじ普及広報事業の一環として、(財)自治総合センターが実施するコミュニティ助成事業を活用し、環境センター文化ホールにて、人形劇「大どろぼうホッツェンプロッツ」が、午前、午後に分けて2回公演されました。

公演には、町内の幼稚園、保育園児と松崎小学校の児童が観劇に訪れ、物語の世界を楽しみました。



【問合せ】

教育委員会（42）3971

## イベント・催し紹介

第27回松崎町史跡めぐり駅伝大会

【日時】12月12日（日）  
（予備日）12月19日（日）  
開会式 9:00～  
スタート9:45

松崎港から町の史跡に関わる拠点を経由し、松崎小学校までの5区間9.77kmのコースで行われますので、応援をお願いします。

なお、当日は大会実施に併せて交通規制を行いますので、ご協力をお願いします。



## 松崎文芸

— 短歌 —

北斗星を目指し舵輪をにぎらうか

とんでいけさうな気をする今宵

岡村芳子

けものみちといふが山野にあるやうに

海に魚のとほるみちあり

高橋百代

言葉なき優しさに解れる思ひなり

合歓の咲く婆装羅峠を越ゆる

堀岡洋子

飲みほししコーヒーの残りはまだ香り

言はねばならぬ言葉を選びゆく

高橋栄美

いっしゅんに落ちたる墨の意外にも

引き立てられて字のまとまれり

山本智恵子

遠き道を少女のやうな友の来て

四つ葉クローバーに励ましくれる

土屋君子

どしゃぶりのトンネルをぬければ谷底より

わきあがり来る霧につつまる

細田光代

# ～ まちのできごと ～

11/2・3  
秋まつり



松崎町内では、11月2日から3日にかけて、秋まつりが開催されました。町内の各神社では、三番叟や相撲が奉納され、獅子や太鼓台が地区内を賑やかに練り歩きました。

11月中旬  
冬の風物詩浜囲い設置



雲見、石部、松崎海岸では、伊豆西海岸特有の西風により、強い風にあおられた砂が民家や道路に積もるのを防ぐため、海岸に風の通り道をふさぐように浜囲いの設置作業が行われました。

11/5～8  
田んぼをつかった花畑種まき



那賀地区の稲刈りを終えた田んぼでは、種まき作業が行われました。来年の春には花畑となり、アフリカキンセンカなど6種類の花々が咲き、来場者を楽しませます。

11/16  
生涯学習ソフトボール秋季大会



総合グラウンドでは、町内9地区が参加した生涯学習ソフトボール秋季大会の決勝戦が行われ、江奈3区との接戦の末、1点を守りきった船田チームが4年連続で優勝しました。

## 第11回市町対抗駅伝大会に向けて

12月4日(土)、静岡県県庁をスタートし、草薙陸上競技場をゴールとする11区間

42・195<sup>キ</sup>のコースを舞台に、第11回市町対抗駅伝競走大会が開催されます。

今年も各世代で実力のあるメンバーがそろい、毎週水曜日に松崎小学校グラウンドで夜間合同練習をはじめ、個人での日ごろのランニングなど、この大会へ向け、選手たちは練習を重ねています。

この大会は、県内35市町40チームが参加し、各市町の誇りをかけて毎年熱戦が繰り広げられています。

松崎町は、県内でもっとも人口が少なく、急速に少子高齢化が進んでいる地域のため、他の市町に比べ、選手候補者が少なく、過去の大会では、

1度も入賞を果たせていません。

私は、選手たちに、こういった逆境を跳ね飛ばし、町の部での入賞を果たしてほしいと願っています。

長距離を走る選手たちにとって、沿道からの声援は何よりの励みになります。町といたしましても、応援していただける方専用の日帰りバスを毎年用意しています。

町民の皆様も、このバスを利用していただき、静岡市内を町民の代表として走る選手へ、コース沿道からこの市町にも負けない大きな声援を送り、選手とともに町民の皆様も一体となって入賞をめざしましょう。

松崎町長

齋藤 文彦

## 町長室からこんにちは ⑫

# 21世紀 松崎町三つの実践運動「あいさつ・返事・後しまつ」

## 町の人口と世帯

(平成22年10月31日現在)  
( )内は前月比

総人口	8,012人	(-11人)
男	3,807人	(-1人)
女	4,205人	(-10人)
世帯数	3,159戸	(+3戸)
転入	9人	転出 16人
出生	1人	死亡 5人

## 町の交通事故

平成22年10月発生分  
( )内は前年同月比

人身事故	1件	(±0)
物損事故	9件	(+1)
死者	0人	(±0)
傷者	5人	(+4)

## 戸籍だより (10月届出分)

### おくやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
岩地	齊藤愛子	71	善一
東区	長澤浩作	98	重代
岩地	齋藤亦吉	92	和興
伏倉	小林松枝	100	恵子
西区	藤井稔	91	稲葉里江

### おめでとうございます(出生)

地区	氏名	性別	保護者
北区	ふみ史弥	男	齋藤嘉啓



※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

## 保健師だより

### 保健事業の紹介

#### 育児グループ



育児グループは、母親の育児不安の解消や子どもの成長発達を促すことを目的に、毎月第1金曜日の午前中に児童館で行っています。

毎回、生後3カ月児から3歳児までの親子が15組前後参加し、親子遊びや体操などを行っています。

最近では、静岡県の認定を受けた子育てサポーターの方たちの協力により、夏はプールで水遊びをしたり、冬はクリスマスツリーの作成をしたり季節に合わせた遊びも行っています。

母親と子どものふれあいの場や、他の親子との交流の場となっており、参加者はほのぼのとした時間を過ごしています。

## 地域交流通信

松本市安曇地区から

### スキー場も準備が進んでいます

安曇地区は11月になると、岐阜県境付近の国道と県道が、安房トンネルを除いて翌年の5月まで閉鎖されます。

すでに、11月1日から閉鎖されている県道乗鞍岳線の三本滝から岐阜県境では、一部の区間がスキー場のゲレンデになります。

現在も、最上部にあるゲレンデ近くまで積雪があり、12月11日にはスキー場開きが行われます。

このスキー場開きに間に合わせるため、リフトに搬器を取り付けて加重試験を済ませました。

平成10年2月に長野市周辺で行われた第18回冬季オリンピック以降は、県内を訪れるスキー客が減少し続け、年末年始さえリフト待ちがありません。

今年は、地域が元気になるよう、多くのスキー客が訪れる賑やかなシーズンになってほしいものです。

【アルプス観光協会

良波芳隆】



リフトの加重試験